

4. 日本人一般集団における非空腹時採血の中性脂肪と脳・心血管疾患死亡との関連 NIPPON DATA90

研究協力者 平田 あや (慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室 専任講師)
研究分担者 岡村 智教 (慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室 教授)
研究協力者 平田 匠 (北海道大学大学院医学研究院社会医学分野公衆衛生学教室 准教授)
研究協力者 杉山 大典 (慶應義塾大学看護医療学部 教授)
研究分担者 大久保孝義 (帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座 教授)
研究分担者 奥田奈賀子 (人間総合科学大学人間科学部健康栄養学科 教授)
研究分担者 喜多 義邦 (敦賀市立看護大学看護学部看護学科 教授)
研究分担者 早川 岳人 (立命館大学衣笠総合研究機構地域健康社会学研究センター 教授)
研究分担者 門田 文 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 准教授)
研究協力者 近藤 慶子 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 助教)
研究代表者 三浦 克之 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 教授)
研究分担者 岡山 明 (合同会社生活習慣病予防研究センター 代表)
顧問 上島 弘嗣 (滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任教授)

背景)

非空腹時採血の中性脂肪値は空腹時採血の中性脂肪値よりも脳・心血管疾患に対して強い予測因子であると考えられている。しかし、非空腹時中性脂肪値の脳・心血管疾患死亡に対する影響は明らかでない。そこで本研究は、日本人一般集団における非空腹時の中性脂肪値と脳・心血管疾患死亡との関連を検討することを目的に実施した。

方法)

脳・心血管疾患の既往者や食後 8 時間以降の採血を行った者を除外した 6,831 名を対象として 18 年間追跡を行った。対象者を非空腹時中性脂肪値によって 7 群 (≤ 59 mg/dL, 60-89 mg/dL, 90-119 mg/dL, 120-149 mg/dL, 150-179 mg/dL, 180-209 mg/dL, and ≥ 210 mg/dL) に分類し、各群における多変量調整脳・心血管疾患死亡ハザード比を算出した。さらに 65 歳未満、以上で層化して同様の解析を行った。

結果)

観察期間中における脳・心血管疾患死亡は 433 名であった。非空腹時中性脂肪: 150-179mg/dL を参照群として、210mg/dL 以上では脳・心血管疾患死亡リスクが有意に上昇した (HR=1.56, 95%CI: 1.01-2.41)。一方、中性脂肪がより低い値においても脳・心血管疾患死亡リスクの上昇を認めた。年齢別に層化解析を行った結果、65 歳以上では非空腹時中性脂肪の低値が脳・心血管疾患死亡リ

スクの上昇と関連する一方、65 歳未満では高値が脳・心血管疾患死亡リスクの上昇と関連した。

結論)

日本人一般集団において、非空腹時血糖と脳・心血管疾患死亡には U 字型の関連を観察された。

第 51 回日本動脈硬化学会総会・学術集会 (2019.7.11 京都)

J Epidemiol. 2021 Jan 16. doi: 10.2188/jea.JE20200399. Online ahead of print.